

塩屋公民館移設工事の際に不時発見された壕について

1. 壕発見!?

2023年9月12日、博物館に塩屋区長さんより塩屋公民館移設新築工事の際に「壕のようなものが出てきた」と情報提供をいただきました。

発見当時の状況を聞くと壕の入り口には石灰岩で蓋をされているようで、その石灰岩を取り除くと水があふれ出てきて、中をのぞくと空洞である事と木材が確認できたそうです。また、発見場所一帯によく水が湧くのは昔、井戸があったためだそうです。



壕発見時

2. 壕の保存状態

壕内部を外から確認したところ、壕は千枚岩の岩盤を掘りこんで造られていました。内部は浸水しており常に水が湧いてくる状況で、入り口には土砂が溜まっており、ライトを当てても奥まで見ることができず十数メートル程続くと思われました。

出てきた木材は、柱と梁として使われており、内部が浸水していたおかげか残りが良好で完形で残っていました。柱として使用されている木材は壕の両脇に配置され上部先端をL字状に加工されているのが確認でき、梁として使用されている木材は柱の木材から横に掛ける様に天井に配置しており、こちらの木材も両側先端の加工が見られました。



土砂撤去作業

3. 壕の調査

2023年9月23日、壕の内部の調査を実施しました。内部に入ると水は湧き出てきているというより、地下に浸透した水が溜まったようでした。そのため、奥の方まで水が溜まっており、柱と梁の木材は良好な状態が残っていました。内部は土砂の影響か大人が中腰で歩くのがやっとで、大人二人がすれ違う事がギリギリの幅でした。

壕は15メートル延びており、当初、まっすぐ伸びているかと思われましたが、入り口を正面として見たとき9メートルほど進むと左に折れ曲がる構造となっていました。奥は少し傾斜になっていて上へと続くようでしたが天井が崩落し、先を確認することはできませんでした。



土砂撤去後

4. おわりに

恩納村博物館では、6月6日～10月5日の期間で慰霊の日特別展「沖縄戦から80年—うんなのイクサクを振り返る—」を開催しています。今回紹介した壕についても出土した木材と一緒に展示していますので是非、足をお運びください。

この壕について、何か情報などありましたら恩納村博物館にご連絡ください。



柱と梁

お問い合わせ：恩納村博物館 ☎982-5112